

## 公表しよう。私には 親しい人妻がいることを

今回は東京の女性について話そう。良く聞かれることだが「女のいるんですか？」と聞かれる。米国に毎年、数週間もいるので「金髪・ブルーアイ」ですか？ なんてことになる。いるかどうかは想像にお任せするとして、東京にはとても親しくしている女性がいます。

歳は30代、身長は165cm、中肉中背の色白が目がクリッとしたところがかわいい。一番のポイントは、みなさんが大好きな人妻であることだ。付き合いは北海道にいる時からだから結構長い。最近はこの女性の旦那が出張きみで、**さみしがっている**ので以前より頻繁に会い、交流を深めることになる。

子供は3人いて、突然、中央線沿いの25歳で購入した自宅に遊びに行っても、昔から出入りしているので、家族同様に対応してくれる。1月に買った時には、駅でテキサスバーガーを子供一人当たり2個買い、持参すると「ありがとうございます」と素直に喜んでくれる。

より親身に付き合う様になったのは、この女性が短大を卒業するとき、所属するスキー部の最後の合宿に行き、大転倒して翌日病院に行くこと

になった事件がきっかけだ。アキレス腱を伸ばして痛がっているにも関わらず、その病院は「空きベッドがないので入院は1カ月後です」と言い放ったそう。就職を2カ月後に控え、困った挙句、将来の旦那さまに相談をしないで私に電話をかけ、助けを求めてきた。政治的なことは嫌だったが、かわいい彼女のため、父の同級生が当時国会議員をしていたので、そのコネを使ったところ、同じ病院から翌日電話があり「今日、入院してください」と言われたそうだ。正直言って日本の医療はこんなものなのかと落胆したことを今でも思い出す。そして、お礼として数日以内に、その国会議員の秘書に10万円を送ったが、領収証はもちろん来なかった。やがてこの女性にも子供ができて、共稼ぎの為に入園料が安い公立の保育所に入れることを希望したが、競争率は当時でも3倍以上あり、まともな方法では入園が無理なことは分かっていた。やはり電話があり、相談にのることになった。「どうや

Vol.25

ああ東京の女よ



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

ったら入園できるだろう？」。私の答えは明快だった。その町の議長さんのお宅に行き、「東京でのお願いは**虎屋の羊羹とお酒2升**持って行きなさい」とアドバイスした。やはり翌日、入園希望の保育園を担当する役所の部署から電話があり「入園手続きをしてくださいと言う具合になった。もちろん、その日の

オレにも  
言わせる!

北海道長沼発  
ヒール宮井の憎まれ口通信

うちに議長宅にお礼を言いに行ったが、「私は何もしていない、それよりも次回の選挙はよろしく」と言われ、市議選挙ではウグイス嬢を買って出るようになった。

人生持ちつ持たれつということなのだろう。

ちなみに、その後、彼女にはもう2人の子供が出来るが、同じことを繰り返して、現在では無事卒園してワンプク小僧になっていると言いたい、が、それでもない。

昨年、私が操縦する飛行機に乗せたところ、「東京に帰ったら自慢する？」と聞いたところ、「いや、こんなすごいこと誰も信じないから余計なこと言わない」と言った。何か子供らしくない発言に大人に成長したその姿に少しがっかりした。

家計もすっかりママを演じている。近所には紀〇〇屋と言うハイソのスーパーがあり、この女に言わせると「あんな高いもの食べて意味あるの？」とマトモな金銭感覚も持っている。

この女性は食材に関する20000人の社員と数万人のパートさんがいる会社で働いている。最近、景気が悪いので、社員のちよつとした金銭の間違いやルール違反であったりも、会社から解雇されることがあるそうだ。業者と結託して商品の横流

し、バックマージンの要求など悪質な場合はもちろん、通勤定期を一区間ごまかしただけでも、アディオスとなる。やはり食に関する職業に「ウソ」は似合わない。どこの誰が言ったのか忘れたが、たとえ誰が見ていなくても、たとえ神様が昼寝をしているのですから。

で、その女性から深刻な電話相談があった。人事から「君もこの会社で働いて10年経つかあ、ところで同期は何人残っている？」と言われたという。つまり同期100名中で残っているのは5名だから、早く辞めたらと早期退職を促されたと思つたらしい。「本当に仕事ができなくて首にしたいなら、ほかの方法を使うだろう。『私の給料を5年前の水準に戻してください』と人事に提案しなさい」と私は行った。で、翌日、本当に実行してしまった。その答えは「東証上場のわが社をなめるな、まじめに働いて給与が下がる規定はわが社には存在しない」。その結果、同期の2人が去り、この女性は現在人事部長のお目にかかり、その人事部に異動になり、現在ではお局になりかけているそうだ。私の良きアドバイスがあり、現在の地位があるとよく感謝される。確かにその様に言われると変に贈り物をいただくより

もうれしく思う。

## 「中身の無い女」には「中身の無い男」が集まる?

話を東京の女性に戻そう。このコラムを書くようになり、私にも多くの女性ファンが現れ、多くは東京の女性だがよりアジアのテイストを感じる。魅力的な方ばかりだが、中にはペンネームを使ったり、職業を偽ったりする危ないおねーちゃんもいるが、君子危うきに近寄らずである。中には、「私とあまりにも違いがあるので勉強になりませう」なんて訳のわからないことを言う人もいる。確かに東京の女性は環境に適応して強く生きていくことは認めるが、自分に正直に生きていくかと問えば?? 人はウソをついてはいけない。仮にうまく言っても最後はバレて自分自身に騙されることになる。その様な人は自然と淘汰される。このことは女性だけではなく、北海道の農業生産者にも当てはまる。我々生産者があるべき姿は自分に正直であることだ。ウソは排除されるとはいえ、その運命に淡い期待を込めない方がいい。いくら神さまをウソ、方便で騙すことができて、作物が騙されることはあり得ない。ある方から「中身の無いチャラチヤラした男はキライ」という表現を

初めて聞いた。少なくとも北海道では、その様な男を見下すような表現をする女性を、見たことも聞いたこともない。ではなぜこのような発言をするのか。やはり鏡に写した自分を表現しているように思える。つまり自分に清く正しく生きていれば、相手の男をこのような言葉で表すことはない。北海道の女性は明らかに東京の女性よりも**男性依存度**が低いのではないだろうか。このような発言をする女性は強く生きていそうで、本当は男性の力を必要としているのかもしれない。このような場合、真実を語り、真正面からぶつかってくれば、救いの手を差し伸べる人は出てくるのではないだろうか。

「でも、あまり強く正面からぶつかって来ても痛いので、適度にやらないと共倒れになる」と、ススキノで80HPの**トラクターを買いでもらったホスト**が意味深く語っていたことを思い出す。

ところで冒頭の女性は誰だつて? 私がGM大豆計画を発表した2004年の秋、生協の組合員であるこの女性にも「北海道で大変なことが起きているので、反対の署名活動に協力してください」と言われ、サインしながら「兄がいつもご迷惑をかけ申し訳ございません」と頭を下げた、愛すべき妹である。